

会員数	94,160	(前月比) +	25
手配り	28,605	(前月比) -	49
郵送	9,226	(前月比) +	6
会員世帯数	41,120	(8/31現在)	[前月比 20増]
協同基金到達額	2,443,846,000円	(8/31現在)	[前月比 4,011,000増]
協同基金出資者数	22,746名	(8/31現在)	



発行
健康友の会 みみはら
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部30円



健康友の会みみはら

40周年記念のつどい

友の会は地域にとっても私にとっても大切な居場所



社会医療法人同仁会
田端志郎 理事長

創立40周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。いつもご利用いただき、心より感謝申し上げます。健康友の会

みみはらは地域の居場所としての役割を果たし、「安心して住み続けられるまちづくり」に大いに貢献しています。これからは変わらぬに発展されることを願っています。私は理事長になって以来、「たまり場訪問」を毎年行ってきました。ある幹部から「田端先生はずるいなあ、友の会の人気者になって…」と、冗談交じりに言われました。各支部の世話人さん



健康友の会みみはら 40周年を迎えて

様々な困難を乗り越え40年。これからも同仁会と手を携えて



健康友の会みみはら
江戸道子 会長

健康友の会みみはらはこの11月で40周年を迎えます。友の会を支えていただいた多くの方々に感謝を申し上げます。1984年11月、会員84名の出席で「耳原友の会設立総会」が行われました。私は36歳、何もわからないままこの総会に

参加していました。そして40年。この間いろいろなことがありました。前倒産、セラチア菌感染。この困難を乗り越えてきた同仁会の横にはいつも友の会がありました。病院を離れていった患者さんへ友の会の会員さんの地域訪問を行い、

誠心誠意実情を説明し、信頼回復に頑張りました。そして念願の新病院建設をやり遂げ、今まで、2030年の樹を掲げて、鳳フリニック建て替え、大仙西エリアの地域コミュニティゾーンの建設と高齢者社会に対応するべく事業を進めています。

402名の会員で出発した友の会は8月現在、9万4160名(4万1200世帯)と大きく前進しています。これから同仁会と力を合わせ50周年、60周年へと、新たに友の会の第1歩を歩んで行きたいと思っています。

や会員さんの顔を思い浮かべることができ、全てのたまり場やセンターを知っていること。また、皆さんからたくさんのお言葉を頂いたことは、私にとって大きな財産です。友の会の存在は、理事長と云うストレスの多い立場

にいる私を支え続けてくれてます。私たちは中期事業計画「みみはら2030年の樹」を成功させ、健康友の会みみはらは次の40年も地域社会に貢献し続けます。皆様のご支援とご協力を引き続きお願い申し上げます。

40周年記念企画委員会より「ごあいさつ」

健康友の会みみはら40周年を記念し10万人の友の会めざす節として、「40周年記念のつどい」を開催します。

「ごあいさつ」は、若本三千代・天然デンプンズの爽やかなうた「ごえでオーピング」、まつり芸能集団田楽座の皆さんの舞台と、友の会会員によるコーラスを行います。

このコーラスは、長年「うたごえ」サークルを作り歌ってきた会員たちの最高の発表の場として

ご家族ご友人だけでもご参加いただけます。ご家族ご友人皆さんそろってお越しください。

聴診器

6月の話の続き。4月我が家の1階窓枠のアシナガバチの小さな巣は、近所の目もあり大仙公園へ連れていき撤去とした。青虫やイモムシを獲得アシナガが本当に危険な生き物なのか？ずっともやもやしなながら過ごしていた6月、2階の窓際にアシナガ君の巣ができていたではないか！網戸越しにハチたちの一挙一動が観察できる貴重な夏となった。巣の直前に顔を付けてもハチ達は知らん顔。せっせと幼虫に餌をやり、巣の壁を修繕し、羽につけてきた水滴を巣に振りまいては暑さをしのぐ行動など毎日観察することができた。お盆が過ぎると長径10cm近い立派な巣に育ったが、この頃からハチたちの動きはめつきり鈍くなり飛ばないハチが目立ち始めた。アシナガバチは青虫を獲る元来おとなしいハチだが巣を大きくする7〜8月のみ、巣の30cm以内に近づくと警戒して攻撃することがあり、危険な生物と誤解される所以とされる▼働きバチの寿命は約1ヶ月。新女王蜂が巣立つ9月は働きバチたちの寿命は尽きる一方で攻撃しないが、この時期の巣が最も大きく自立つため殺処分されやすいという。相手の振る舞いを知らず敵とみなす事を慎まねば、とハチを見て思う▼今年、我が家の金柑には青虫がおらず元気いっぱいだ。(緒方浩美)